

デジタル・シティズンシップをはぐくむために

ネットリテラシーの育成に向けた協議会

[秋田市PTA連合会 秋田市小・中学校長会 秋田市教育委員会]

子どもたちは学校で配布されたタブレット端末や自分の端末（スマホやゲーム機など）を用いて、学習やコミュニケーションなど日常の様々な場面でICTを利用しています。

こうした中、子どもたちがICT機器やインターネットを利用するメリットやリスク等を理解し、よりよい選択や行動ができるデジタル社会のよき担い手となるよう、デジタル・シティズンシップを学校と家庭が連携、協力して、はぐくんでいくことが大切です。

デジタル・シティズンシップとは・・・？

「主体的かつ責任を持ってICTを活用し、よりよい社会をつくるために行動する力」のことで、ICTを用いて積極的に社会に参加するためのスキルや態度を表しています。



家庭で、子どものデジタル・シティズンシップをはぐくむにはどうしたらよいですか？

子どもが責任を持ってICTを活用していけるようになるためには、発達の段階などを踏まえ、それぞれの子どもにあったICTとの関わり方を親子で一緒に考えていくことが大切です。



家庭で、こんな心配や悩みがあるときには・・・

使用時間を決めないと、いつまでもインターネットやゲームをしています。



子どもは情報機器の使いすぎがよくないことを知っていますので、一律に利用時間を制限するのではなく、子どもの使い方にあった利用時間を一緒に話し合ってみましょう。



LINEやSNSでネットいじめに関わらないか心配です。



SNSなどを介したコミュニケーションは、子どもにとっても友達や社会とつながる大切な手段のひとつです。利用を制限するより、利用マナーやトラブルへの対応について、一緒に考えてみましょう。



令和5年3月

はぐくもう！デジタル・シティズンシップ

ネットリテラシーの育成に向けた協議会
[秋田市PTA連合会 秋田市小・中学校長会 秋田市教育委員会]

学校には1人1台端末のタブレット端末が整備され、家庭でも多くの子どもが自分の通信機能付き端末（スマホやゲーム機など）を利用するなど、インターネットやSNS等は日常生活の一部となっています。

こうした中、インターネット等の利用制限やネットトラブルから身を守る知識や技能を教える、これまでの情報モラル教育から一歩進め、子どもたちがデジタル社会のよき担い手となるよう、①主体的にICTを活用し、また、②責任を持ってICTを活用し、③よりよい社会をつくるために行動する力（＝デジタル・シティズンシップ）を家庭や学校が連携、協力して、育んでいくことが大切です。

図や動画などを利用し、自分の考えを工夫して伝えている。

ICTを活用し、新しいことに挑戦している。

検索やメモなど、ICTを身近な道具として活用している。

①ICTのよさを生かし、生活を充実させている

ルート検索や活動記録など、屋外でもICTを活用している。

オンラインを活用し、友だちと意見を交流している。

デジタル・シティズンシップ

②自分の行動や判断に責任を持ってICTを活用している

③みんなの幸せを考えて行動している

体をこまめに休ませよう

自分の健康を考えて利用している。

違和感を感じたとき、一旦操作を止めて考えている。

ん！？あやしいな

著作権などの権利を理解し、守っている。

困っています

他者のネットトラブルの解決に協力している。

デジタル・シティズンシップについては、R4年度の啓発資料に詳しく掲載しています。右の二次元コードから参照ください。



中学生サミットの取組

中学校の生徒会代表が集まり、デジタル・シティズンシップをテーマに自分たちができることについて話し合いました。

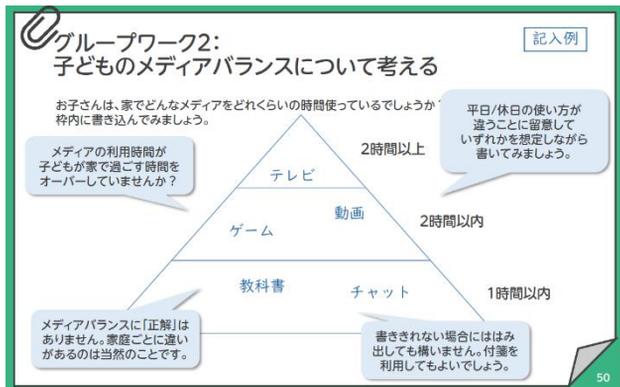
- ・インターネット等を利用する際、その危険性についても考えた上で、ICTのよさを生かして活用していきたいと思います。
- ・生徒会の取組や学校行事において他校とオンラインで交流し、互いの活動を紹介し合うなど、活用の幅を広げていきたいです。



- ・自分でICTの使い方に責任を持ち、必要なときに利用するという心がけが大切だと思います。
- ・生徒会でネットトラブル防止集会を企画し、各自の目標を書いたポスターなどを紹介したいです。
- ・私たち一人ひとりが、安全に利用するという意識をもっと大切にしていきたいと思います。

保護者参加型の取組

情報モラルについて学ぶPTA研修会などの際にデジタル・シティズンシップへの理解を深めるための取組例を紹介します。



【ワークショップで用いるワークシートの例】

○例1 親子ネット安全教室

子どもが自ら責任をもってICTを活用する態度をはぐくめるよう、携帯電話会社や警察等に講話を依頼するとともに、親子で意見交換をする場面を取り入れる。

○例2 ワークショップ型研修会

子どもとICTの関わりについて感じている疑問や課題、その解決に向けたアイデアを、意見交換や協働作業などのグループワークを通して、参加者で共有する場を設ける。

[参考資料: 「家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ~保護者向けワークショップ~」 (総務省)]

取れてますか？メディアバランス

~健康面への気遣い~



①VDT (Visual Display Terminals) 症候群

タブレットやゲーム機などの画面を長時間見ることによって、目や身体に痛みや疲労の症状が出ることを指します。

スマホ老眼、ストレートネック等の原因になることもあるので注意が必要です。

②デジタルデトックス

一定期間、デジタル機器の使用を自発的に控えることを指します。

スマートフォンやパソコン等の依存症の予防とともに、ストレスや疲労の回復に効果があります。